

研究課題 外来化学療法施行患者における栄養スクリーニングと多職種連携の有用性

1. 研究の対象

2022年6月～2023年5月の期間に、当院外来療法室で治療を受けたがん患者の方

2. 研究目的・方法

化学療法を受ける患者では、食欲不振・体重減少・味覚障害などの副反応が起こることもあり栄養状態の評価を行い、管理栄養士による栄養管理や指導が「化学療法の継続」において非常に重要である。しかし、入院患者の栄養評価はシステム化されているが外来患者では十分とは言えないのが現状である。そこで、外来療法室担当薬剤師が患者面談において栄養状態の低下が懸念される場合に管理栄養士と連携する取り組みを開始した。連携の基準や方法等は個人に委ねられていたため高リスク患者が十分な栄養指導を受けられていたか不明な点がある。

そこで、外来療法室で治療を受けた患者の栄養状態を栄養スクリーニング法 MUST (Malnutrition Universal Screening Tool) を用いて調査し、連携の有用性や栄養に関する副作用の程度を解析します。

研究に用いる試料・情報の種類

情報： 電子カルテから患者情報（年齢、性別、身長、体重、症状、臨床検査値等）を収集し、栄養に関する副作用の程度を解析する。

試料：無し

3. 外部への試料・情報の提供

外部への試料・情報の提供は無し

5. 研究組織

研究責任者： 黒川 咲子

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合でも患者様に不利益が生ずることはありません。

本研究における対象患者については個人が特定されないよう匿名化し、個人情報の保護に関する法令、その他規範を遵守いたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 仙台赤十字病院 薬剤部 黒川 咲子

研究責任者： 仙台赤十字病院 薬剤部 黒川 咲子

仙台赤十字病院 薬剤部

〒 982-8501

仙台市太白区八木山本町二丁目 43-3

Tel 022-243-1111 (代表) /内線：1165